



平成 22 年 11 月 5 日

各 位

会社名 日本水産株式会社
 代表者名 代表取締役社長執行役員 垣添直也
 コード番号 1332
 問合せ先 総務部長 竹内 康訓
 (TEL. 03-3244-7181)

第 2 四半期（累計）業績予想との差異および 通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 22 年 8 月 5 日に公表した業績予想と比較して、本日公表の決算において下記のとおり差異および修正が生じたのでお知らせいたします。

（注）個別の業績につきましては、平成 22 年 5 月 14 日に公表済の数値です。

記

1. 平成23年3月期第2四半期累計期間の業績予想数値と実績値との差異

（平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日）

（連結）

（金額の単位：百万円）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	250,000	4,000	3,000	1,500	5 円 43 銭
実 績 値 (B)	237,228	3,314	684	△1,321	△4 円 78 銭
差 額 (B-A)	△12,772	△686	△2,316	△2,821	—
差 額 率 (%)	△5.1%	△17.2%	△77.2%	—	—
（ご参考）前期第 2 四半期実績 （平成 22 年 3 月期第 2 四半期）	241,226	3,805	3,040	1,031	3 円 73 銭

（個別）

（金額の単位：百万円）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	164,000	2,000	2,500	2,000	7 円 23 銭
実 績 値 (B)	156,143	1,312	409	375	1 円 36 銭
差 額 (B-A)	△7,857	△688	△2,091	△1,625	—
差 額 率 (%)	△4.8%	△34.4%	△83.6%	△81.3%	—
（ご参考）前期第 2 四半期実績 （平成 22 年 3 月期第 2 四半期）	154,014	1,174	1,307	1,121	4 円 6 銭

2. 平成23年3月期通期業績予想数値の修正（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

（連結）

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	515,000	13,000	12,000	6,000	21円72銭
今回修正予想（B）	505,000	9,500	7,500	3,000	10円86銭
増減額（B－A）	△10,000	△3,500	△4,500	△3,000	—
増減率（%）	△1.9%	△26.9%	△37.5%	△50.0%	—
（ご参考） 前期実績（平成22年3月期）	481,574	6,227	6,174	44	0円16銭

（個別）

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	333,000	4,000	5,000	3,500	12円66銭
今回修正予想（B）	320,000	2,000	1,200	1,800	6円51銭
増減額（B－A）	△13,000	△2,000	△3,800	△1,700	—
増減率（%）	△3.9%	△50.0%	△76.0%	△48.6%	—
（ご参考） 前期実績（平成22年3月期）	306,862	1,156	2,102	△2,411	△8円72銭

3. 差異および修正の理由

【当第2四半期累計期間】

個別業績につきましては、水産事業においてすりみ、鮭鱒などで魚価の上昇がありましたが、計画に比べ大幅な販売数量の減少や仕入価格上昇分の販売価格への転嫁が進まなかったことによる利益率の低下、などがありました。食品事業において冷凍食品とともに魚肉ソーセージ、練り製品なども売り上げが伸びず、ファイン事業においても機能性原料（注）で生産・販売が計画に対する進捗の遅れがありました。また、営業外費用において、グループ会社に対する外貨建て貸付金の為替差損も発生しましたので、平成23年3月期第2四半期累計期間の業績予想を下回りました。

連結業績につきましては、個別業績が前回予想を下回ったことに加え、海外において南米の鮭養殖事業で大幅な増益がありましたものの漁撈事業における漁獲量の減少などがあり計画を上回ることができず、営業外費用では持分法会社の業績不振による投資損失も発生しましたので、平成23年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想を下回りました。

（注）主に食品素材や化粧品素材向けとなる EPA・DHA、グルコサミン、コレステロール、オレンジラフィア油など

【通期見通し】

個別業績につきましては、通期においても厳しい事業環境が続き、水産事業において計画と比べて販売数量の減少や利益率の低下が予想され、食品事業においても低価格志向が続く中で売上計画の達成は難しいと予想されますので、業績予想を修正しております。

連結業績につきましては、通期においても個別業績の影響が大きいことに加え、南米の漁撈事業において漁獲量減少などが予想される他、食品事業、物流事業においても減益が予想されますので、業績予想を修正しております。

なお、期末配当予想の1株当たり5円（年間配当予想10円）に変更はありません。

（注）上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる可能性があります。

以 上